

始業式挨拶

皆さんおはようございます。

夏休みも終わり、いよいよ2学期のスタートです。

2学期は藤蔭祭である体育祭、文化祭と大きな学校行事が目前に迫っています。夏休みの間も貴重な時間を割いて準備を進めてきたことと思います。皆さんの取組みの成果を大いに期待しています。

2学期の始業式にあたり、1つだけ話をしたいと思います。

皆さんも報道等で知っているかと思いますが、100歳を超えてもなお現役の医師として活躍されていた聖路加国際病院（せいるかこくさいびょういん）の名誉院長の日野原重明さんが、先月105歳で亡くなりました。

日野原さんはかつて10歳の子どもにこう語っておられました。人には「持つ人生」と「なる人生」がある。「持つ人生」とは、欲しいものを手に入れて満足する生き方。「なる人生」とは「もの」ではなく、「自分が何になるか」を目標に、自分を磨き、なりたいものになる生き方であると。日野原さんは、単に周囲の評価が高い職業をめざせと言いたかったのではありません。「なりたい自分」を決め、それに向かって努力し、挫折しても、その挫折から学びまた努力することが大切である。得られた結果よりも、こうしたプロセスそのものに人生の価値があると伝えたかったのです。皆さんも是非、常に前を向いて、自分を磨いて行ってほしいと思います。

まだまだ暑い日が続きますが、体調管理には十分注意をして自分のめざす目標に向かって前進して行ってください。

平成29年8月25日 大阪府立春日丘高等学校長 福留 明富